

第2回市民会議アンケート結果について

令和2年度第2回市民会議のアンケート結果について、以下のとおりまとめましたので、ご確認ください。

「開催方法（書面又は会場）の感想について」

- ・書面だけでは参加している感覚が薄れる。
- ・他の参加者と意見交換ができ、全ての参加者の知識を向上できるので、個人だけの書面会議よりも、会場で開催することこそ市民会議らしいと思う。
- ・障害者各関連団体等の代表者や当事者の方々が、計画に対して自由に意見を言える場が必要。
- ・書面で提出しましたが、聞こえない人は、とても大変だと感じた。
モニタリングの内容を工夫してもらえばありがたいです。
- ・会場開催が、少人数だったので、意見交換しやすかった。参加者間の距離など、出席者全員の安全対策を考えて、着地点を見つけてほしい。
- ・時間が制限されることなく、自分の意見がすべて表明でき、とてもありがたい。但し、他の人の意見が聞けないのは残念。
- ・会場開催に参加したが、人数が少なく発言回数が多いのは良かった。ゆっくりと皆さんの発言を聞きながらそれに答えられたのも良かった。
- ・「コロナ禍において生じた困りごとについて」をいろいろ聞いて勉強になった。
- ・コロナ禍ではあるが、やはり人と人が直接関われる会場開催がいいと思う。対面だけでは伝わりきれない人の想いの強さや参加者の方同士の交流の広がりを感じた。
- ・直接意見を言いあうことができ、有意義だった。
- ・グループごとの討論でしたが、非常に話しやすかった。時間が限られているので事前にどうしても話しておきたいことは用意していくと良いと思う。できれば次回以降も対面開催は続けてほしい。会場のアクセス・環境も特に不満はない。
- ・Zoomなどのオンラインで十分代替できると再認識した。Zoomなら電話でも参加できる。
- ・市民会議を通して、自分とは違う立場の方々のご意見や状況を、直に伺えるのが大きなメリットなので、オンライン会議ソフトを活用したハイブリッド開催を早急に実現していただきたい。
- ・市民会議の各議題について、書面開催による意見表明ができることは良いと思う。
- ・時間に縛られずに自分の意見を伝えられるのはありがたいと思う。
- ・書面の方が言いたいことをじっくり考え時間をかけて書ける（言える）というのが良い。ただ、会場で他の方の意見を直接聞くことで、感じたことに対して思ったことを表わすことができないのが残念なところでもあると思う。
- ・日程的に参加出来ないようなときには、書面開催があると市民会議に参加出来るので助かる。また市民会議実施場所まで行けないときも書面で参加出来るので良いと思います。
- ・就労中なので、職場を休まず参加できるという意味では書面開催の良さがあったと思う。ただし、色々な当事者や支援者の方々と出会って、意見を出し合い・意見を作っていくという対面でのシナジー効果はなくなってしまうと思う。
- ・コロナ禍という理由だけでなく、日程的に都合が悪い場合でも参加ができるので良いと思う。
- ・会場で多数の参加者の中、コロナへの不安を抱いて参加するより、自宅で資料を読んで参加できて安心だった。

- ・1回目は書面だったため、提出までにじっくりと考える時間があった。2回目は自分の意見が出せたことに加え、他の参加者からの意見も聞くことができた。どちらも良い面があるように感じた。
- ・書面会議のほうが、意思決定の最適化と会場参加の方の想いも具体的に文書として作成されると思われたため、新型コロナウイルスでの大変な時期には一律書面にした方が公平で、感染症での参加の場合の不安も取り除くことができると思う。社会が元気を取り戻したら、みなと会場参加でお会いできたらと思う。
- ・今回は別の用事と重なってしまい、会場参加できない状況だった。書面参加があることで参加できるのは、仕事を持つ身としてはとてもありがたい。
- ・色々な方の意見をその場で聞くことができる機会として会場開催は、有意義だと思うが、時間が短いので意見をまとめるのは大変だと思う。書面では、自由に意見が出せることが良いと思います。

「人数を制限した会場開催と書面開催との併催について」

- ・オンライン参加、聴講の可能性を模索頂きたい。
- ・参加者自身の希望でどちらかを選べるのであれば、よいと思う。ただ、会場開催の参加希望者が多くなり、希望者全員が参加できないようなことがあれば、全員が会場参加できるよう、オンライン開催等を検討したほうがよいのではないかな。
- ・書面会議では、参加者個人ごとに時間をかけて意見書を作成して提出できるのはメリットだと思う。会場会議では、参加者の人数を制限したとしても、思うように意見が言えないこともあるし、例え言えたとしても、その意見を聴く側の書記とファシリテーターの技量によるところもあるので単純な比較は難しいと思うが、書面のみとするか、会場のみとするかよりは、会場と書面の併催の方が望ましいと思う。
- ・会場参加の代替手段として、オンライン会議システムの活用も検討されると良い。また、市民会議の会場の様子を抜粋して、動画投稿サイトで閲覧できるようにするなど、現代にふさわしい方法もぜひ検討いただきたい。
- ・コロナ禍での併催は仕方ないと思う。しかし、文章が苦手な参加者の場合、書面開催で資料を読み込んで意見を言うのは難しいと思う。人数を制限した会場開催は抽選だったが、文章が苦手な参加者を優先的に抽選するのはどうか。
- ・今までも、さいたま市の障害者支援計画についていろいろと勉強を試みましたが、すべてを理解することは不可能です。ただ、気になる具体的な問題点について、市としてどう解決しようとしているか、または解決が難しいのかはホームページや資料等で少しはわかるようになりました。市民の意見を吸い上げるという作業は本当に大変かと思いますが、今回のような併催はいい方法だと考えます。
- ・会場開催は人の意見を聞いて自分の意見が影響されると思う。影響されて意見を言ってしまうと時間の制限もあり、言いたかったことを言えなかったこともある。自分の意見を間違いなく発信するのであれば書面開催はベターだと思います。
- ・人の意見を聞きたいとも思うので、出来れば閲覧だけでもオンライン開催をしてくれるとありがたい。私の知っているオンラインは、同時に喋れる人が一人になってしまうので複数人の会場を観覧できるだけでもいいと思う。
- ・コロナ禍においては両方で行う今回の方法に賛成。
- ・会場へ行くことが難しいと考える人にとって良い機会になると思う。
- ・書面では他の参加者の意見を聞くことが出来ないのも、いちばん良いのは会場実施が良いと思う。人数制限など感染対策をしたうえで他の方の意見を聞くことは自分の考えをまとめるのにとっても参考になる。コロナ禍においては、今後 Zoom などによるオンライン開催を取り入れても良いと思う。

- ・どちらにしてもメリットとデメリットがあるので、より多くの意見が反映されるよう考えて実施してほしいと思う。
- ・人数を制限などは十分に対応していただくことで理解できますが、第3回会議は、すべて対面で検討をお願いしたい。
- ・障害者は書面で対応が厳しいと思われませんが、障害者の全体の意向できめていただければ幸いです。
- ・透明マスク着用者が来場する場合は、他の来場者へ事前にその旨を伝えることが大切。透明マスクのリスクを承知で来場する人と、事情を知らされず来場して、当日周囲に押し流されるように納得しないままに開催されるのでは意味が違う。今後は、感染対策や諸事情に応じて、来場希望者・書面開催希望者・Zoom希望者に分けて、開催してほしい。
- ・書面開催と会場開催を併用したのは、コロナの状況を考えると妥当だったと思う。また、本当にしんどいときは、当事者も家族も会場への外出も難しいときもあると思うので、会場開催への参加、オンラインでの会場開催への参加、書面開催での参加の3種があるといいと思う。
- ・今の感染状況では、このような方法しかないのかなと思います。
- ・参加方法をどちらか選べるという方法は良いと思います。コロナ禍で外出を控えたい人、仕事など都合がつかない人は書面で、また、障害当事者の中には自分の言葉で伝えたい、話し合いたいと思う人もいると思う。併催の方法は今の状況の中ではよい方法かと思う。
- ・人数制限をしたことは、感染症予防ではよい制限だったと思う。職場の方もしっかりと対策を取られていることのお話があった。
- ・会場に行くまでの交通機関の環境と感染症の拡大が開催前に政府から一時制限がかかり、中高年の感染の報道で不安になってしまった。
- ・今後も書面会議。会場開催両方開催してほしい。
- ・人数を制限したのは良いですが、あまりにも少なすぎではと思いました。書面開催という方法もありだなと思いました。
- ・まだコロナが収まる様子ではないので、会場と書面、選べる方法（併催）は良いと思う。
- ・情勢に応じた開催方法であり、より多くの方が参加できると思った。
- ・併催はやむを得ないと思う。会場開催は継続してほしい。
- ・コロナの第3波がピークに達している現状では、今回の併催は適切な判断だったと思う。リモートでの開催を望む声も多いようですが、対面での開催を止めることが条件であるなら私は反対である。感染リスクを参加者ひとりひとりが考慮した上で対面での開催も継続すべきだと考える。
- ・各区で行ってほしい。
- ・書面開催は会議という名称を網羅できないと思う。主に書面開催とは、何かを決定する会議の代替策であり、ディスカッション、他の意見を聞くということを最も大事にするという主旨からも、次回はオンライン開催を強く希望します。
- ・人数制限の会場開催と書面開催のハイブリッドをずっと継続するのはいかがなものかと思う。
- ・市民会議であれば、書面開催もありだと思う。しかし諮問委員会は、その役割から見ても、書面開催では不十分で、オンラインと対面のハイブリッドにすることが必須。
- ・近い将来の「新しい生活様式」に向けて、オンライン会議ができる体制構築は必須だと考える。オンライン会議ソフトには、グループに分かれて話し合いができ、また全体に戻れるという機能もある。視覚障害者関係イベントでも活用されており、国もデジタル化に本腰を入れ始めている現状を踏まえて、さいたま市も「認識」レベルではなく、実現の方向で検討してほしい。
- ・三密の回避が難しい視覚障害者の立場では、感染予防と安全の観点から、上に上げたオンライン開催の導入を、ぜひ検討してほしい。
- ・オンラインでの開催も加えられたら良いと思う。